

福島の子どもたちを守ろう

- ・一般人の年間被ばく限度量は年1ミリシーベルト
- ・子ども年20ミリシーベルト基準の撤回を！

文科省は子供に対して20mSvまでの被曝を強要

(参考2)

平成23年4月19日
文部科学省・厚生労働省

避難区域等の外の地域の学校等の校舎・校庭等の利用判断に係る暫定的考え方

ICRP(国際放射線防護委員会)の「非常事態が収束した後の一般公衆における参考レベル」1~20mSv/yを暫定的な目安として設定し、今後できる限り、児童生徒の受ける線量を減らしていくことを指向

3. $7\mu\text{Sv/h}$ 以上の福島県内の学校等(52校・園)について詳細な再調査を実施。

$$\underbrace{(3.8\mu\text{Sv} \times 8\text{時間})}_{\text{屋外}} + \underbrace{1.52\mu\text{Sv} \times 16\text{時間}}_{\text{屋内(木造家屋)}} \times 365\text{日} \div 20\text{mSv/y}$$

屋外

屋内(木造家屋)

再調査の結果

$3.8\mu\text{Sv/h}$ 以上(対象13校・園/3500人)

校庭及び屋外活動の制限

例:屋外活動は1日あたり1時間以内
砂場の利用は控える(幼・保)

$3.8\mu\text{Sv/h}$ 未満

特段の制約なし

積算線量計等により、継続的なモニタリングを実施し、随時評価の上、制限措置を解除*。夏季休業終了までの期間(おおむね8月下旬)をめどに見直し

* 再調査と同様の調査を毎週行い、 $3.8\mu\text{Sv/h}$ を下回り、さらに、翌日以降改めて調査し、再度 $3.8\mu\text{Sv/h}$ を下回っていることを確認できれば制限解除

子ども年20ミリシーベルト基準

=屋外で3.8マイクロシーベルト/時

福島の子どもたちは、「放射線管理区域」以上の被ばく線量の校庭で遊ぶ

「放射線管理区域」とは、

3ヶ月で1.3ミリシーベルト=毎時0.6マイクロシーベルトを超える可能性がある区域です。
標識の掲示が義務づけられているところです。



18歳未満の人の労働は禁止されています。

◆原発で働いた人の労災認定

白血病の認定基準は、年5ミリシーベルト×労働年数
子どもには年20ミリシーベルトで安全？！

労働者	病名	集積線量	作業期間	年平均線量
A	慢性骨髄性白血病	40mSv	11ヶ月	44mSv
B	慢性骨髄性白血病	50.63mSv	8年10ヶ月	5.6mSv
C	急性リンパ性白血病	129.8mSv	約12年	10.08mSv
D	急性単球性白血病	74.9mSv	11年	6.8mSv
E	急性骨髄性白血病	不明	5年5ヶ月	不明
F	多発性骨髄腫	70mSv	4年3ヶ月	16.5mSv

長尾光明氏の業務上疾病に関する意見書 村田三郎氏 2003.3.31.に加筆

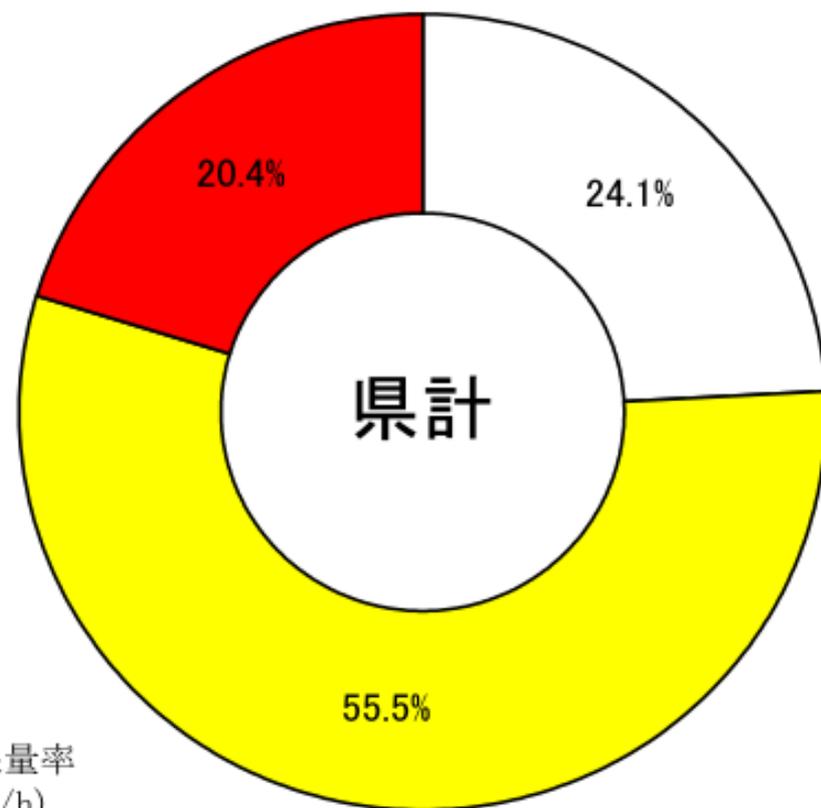
◆福島県が行った 放射線モニタリングの結果

○県内の75%以上の学校等の校庭で、
放射線管理区域以上の汚染レベル

○さらに、全体の25%の学校等の校庭は、
「個別被ばく管理」が必要な程に汚染

「福島県放射線モニタリング小・中学校等実施結果」の集計

方部	空間線量率 (μ Sv/h)	校数	割合
県北	0.6未満	4	1.0%
	0.6-2.2	166	42.5%
	2.3以上	221	56.5%
県中	0.6未満	158	34.6%
	0.6-2.2	207	45.4%
	2.3以上	91	20.0%
県南	0.6未満	56	42.4%
	0.6-2.2	75	56.8%
	2.3以上	1	0.8%
会津	0.6未満	59	23.4%
	0.6-2.2	193	76.6%
	2.3以上	0	0.0%
南会津	0.6未満	37	100.0%
	0.6-2.2	0	0.0%
	2.3以上	0	0.0%
相双 (避難地区を除く)	0.6未満	4	3.8%
	0.6-2.2	80	76.2%
	2.3以上	21	20.0%
いわき	0.6未満	77	29.2%
	0.6-2.2	187	70.8%
	2.3以上	0	0.0%
県計	0.6未満	395	24.1%
	0.6-2.2	908	55.5%
	2.3以上	334	20.4%



空間線量率
(μ Sv/h)

0.6未満 「管理区域」基準以下の放射線が観測された学校*1

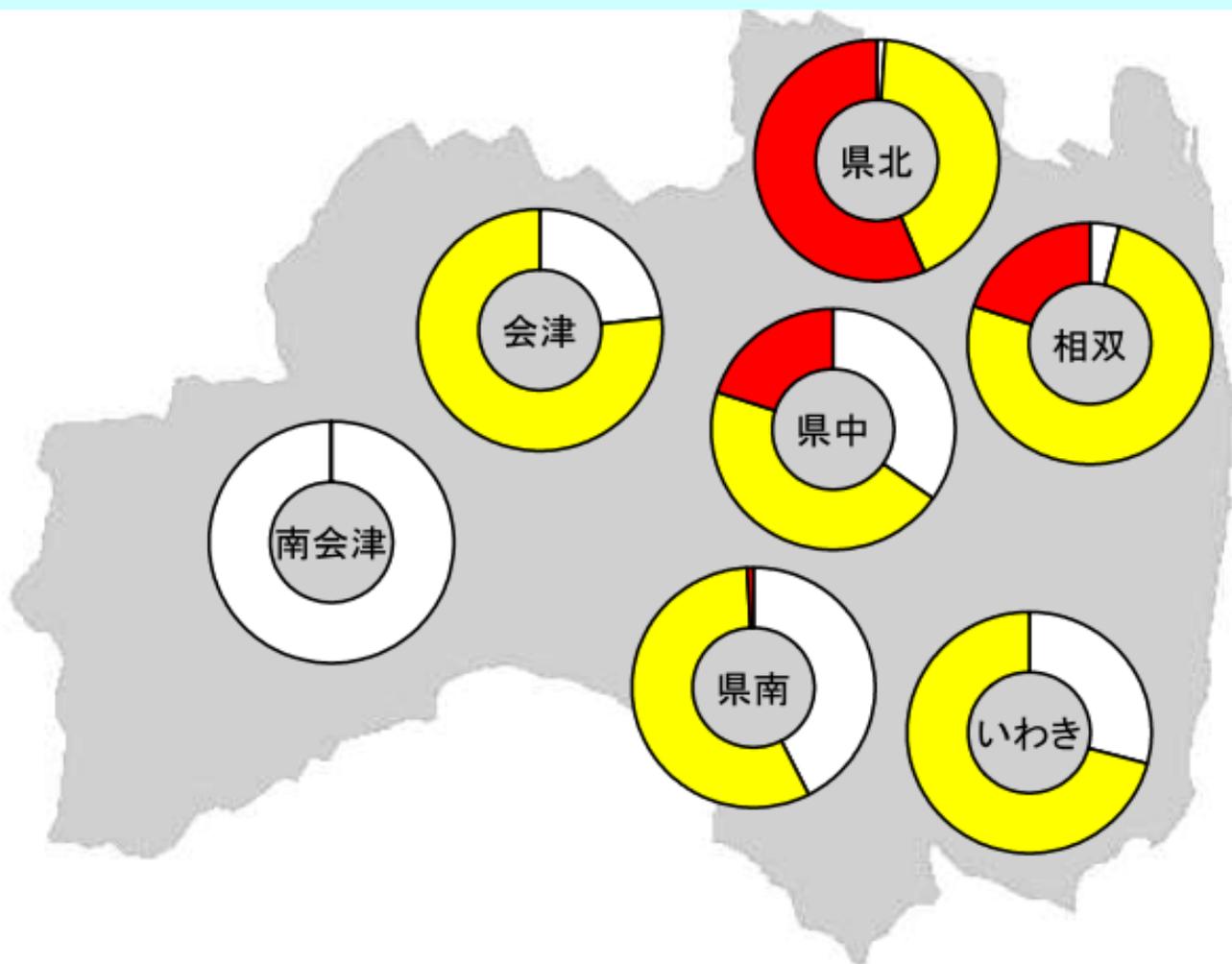
0.6-2.2 「管理区域」に当たる放射線が観測された学校

2.3以上 同区域で「個別被ばく管理」が必要となり得る放射線が観測された学校*2

※「同モニタリング結果」では「1m高さ」と「1cm高さ」の測定値があるが、他の資料との整合性から「1m高さ」で集計

* 原発震災復興・福島会議 作成

方部別集計 の円グラフ



*1「管理区域」

人が放射線の不必要な被ばくを防ぐため、放射線量が一定以上ある場所を明確に区域し、人の不必要な立ち入りを防止するために設けられる区域

*2「個別被ばく管理」

管理区域内において、放射線業務従事者が被ばく量の許容値を超えないようにするため、区域内で受ける外部被ばく線量及び内部被ばく線量を、ひとりひとり個別に計り管理すること

足なみ乱れる政府側

・・・5月2日の政府交渉より

●安全委員会

「20ミリシーベルトは基準にしていない」

「20ミリシーベルトを安全だとする、安全委員、
関連する専門家はいない」

それでも、20ミリシーベルト基準を

「差し支えなし」とした自らの助言は撤回せず

足なみ乱れる政府側

文部科学省・原子力安全委員会の助言は正式決定ではない

- ・4月19日午後2時頃、文科省が年20ミリシーベルトを許容する暫定案について原子力安全委員会に助言を求めた。

- ・同日午後4時頃、原子力安全委員会「差し支えない」

- ・原子力安全委員会は2時間で、子どもの20ミリシーベルトの許容を認めた。一体どのような議論がなされたのか？



- ・議事録のない会議で決められていた。

- ・その会議に出席した4人の委員が、大人と子どもは違う、子どもに20ミリは許容できない認識だという。それでもこの基準は撤回しない。→全く無責任な姿勢

足なみ乱れる政府側・・・それでも撤回しない

文科省や厚労省、原子力安全委員会の回答

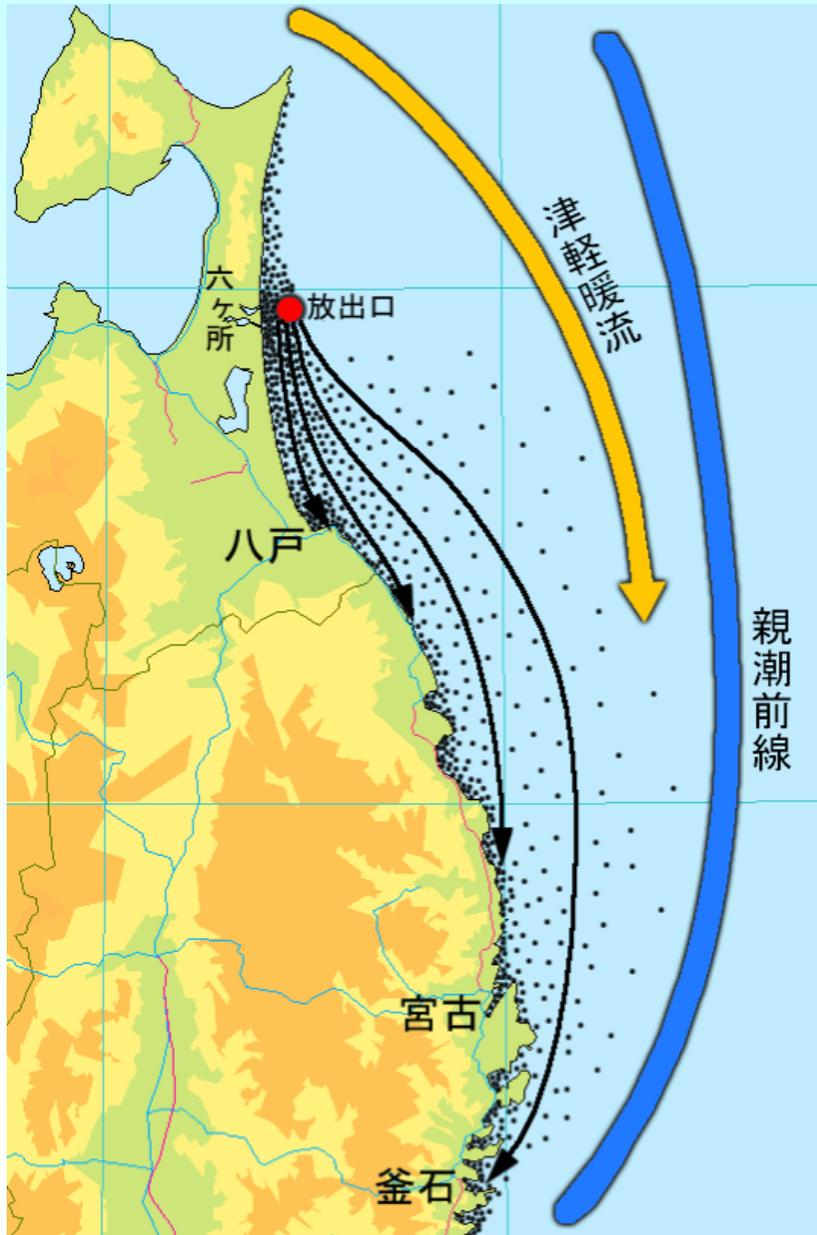
- ・被ばく線量に関して、大人と子どもを区別する必要はない（文科省）
- ・放射線管理区域で子どもを遊ばせてはならないと発言したものの、放射線管理区域と同じレベルの環境で子どもを遊ばせることの是非については回答しなかった。（厚労省）
- ・原子力安全委員会は内部被ばくを重視すべきだと回答。
- ・文科省はシミュレーションで内部被ばくは無視できると回答（そのシミュレーションの根拠は示されていない）。

みなさまへ：子どもへの被ばく最小化を求めていくよう働きかけを！

海の汚染

放射性物質を大量に海へ流した。
希釈されるから問題ないというが、それはウソだった。

「六ヶ所再処理工場」から海へ放出する放射能の場合



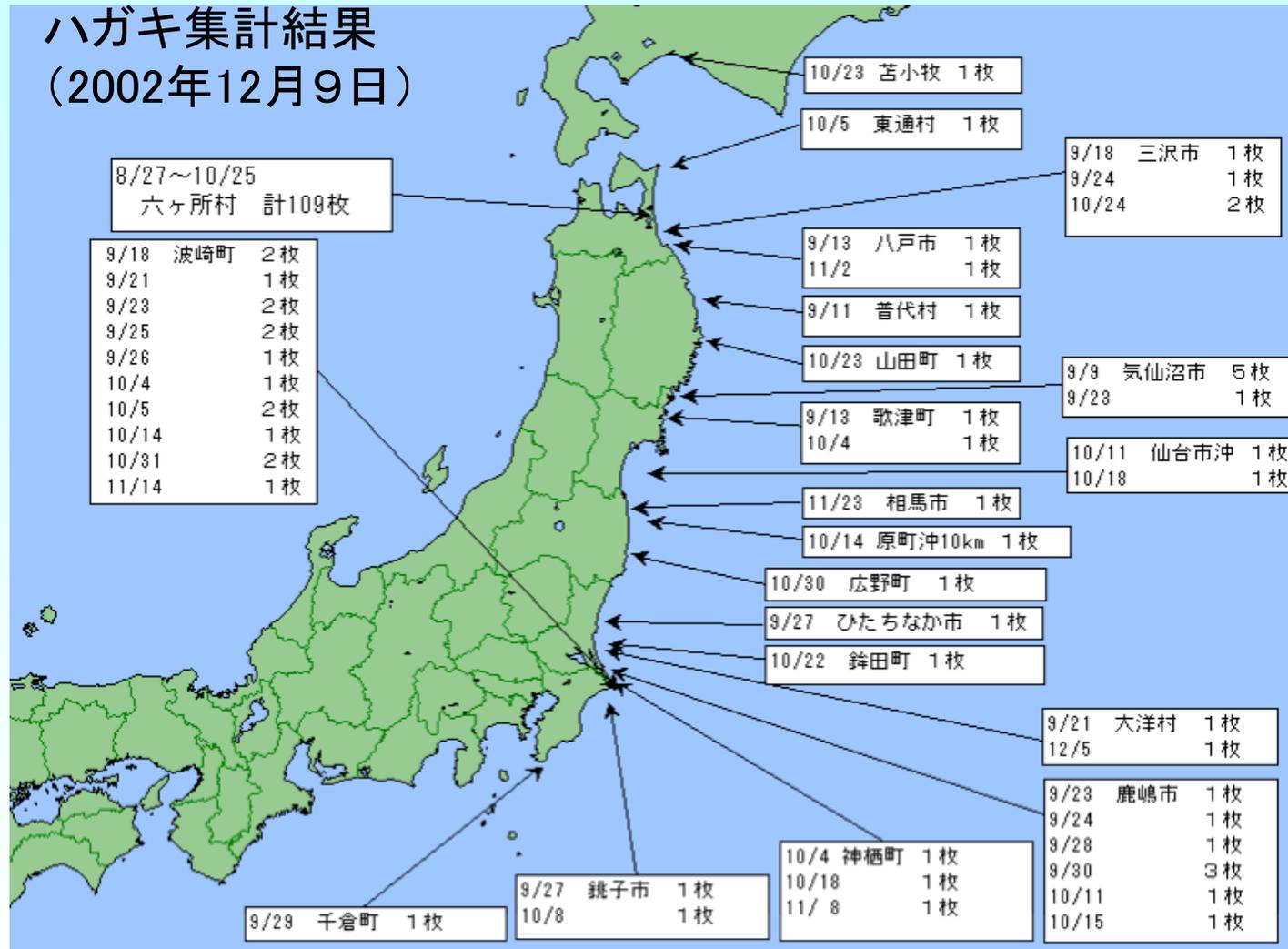
●左の図は、六ヶ所再処理工場から放出される放射能が、どう流れていくのか？を想定したもの。

●放射能は南向きの津軽暖流に乗って流れるが、親潮前線にはばまれ、沿岸にへばりつくような流れとなる。

**「希釈して薄まるので安全」
は本当なのか？**

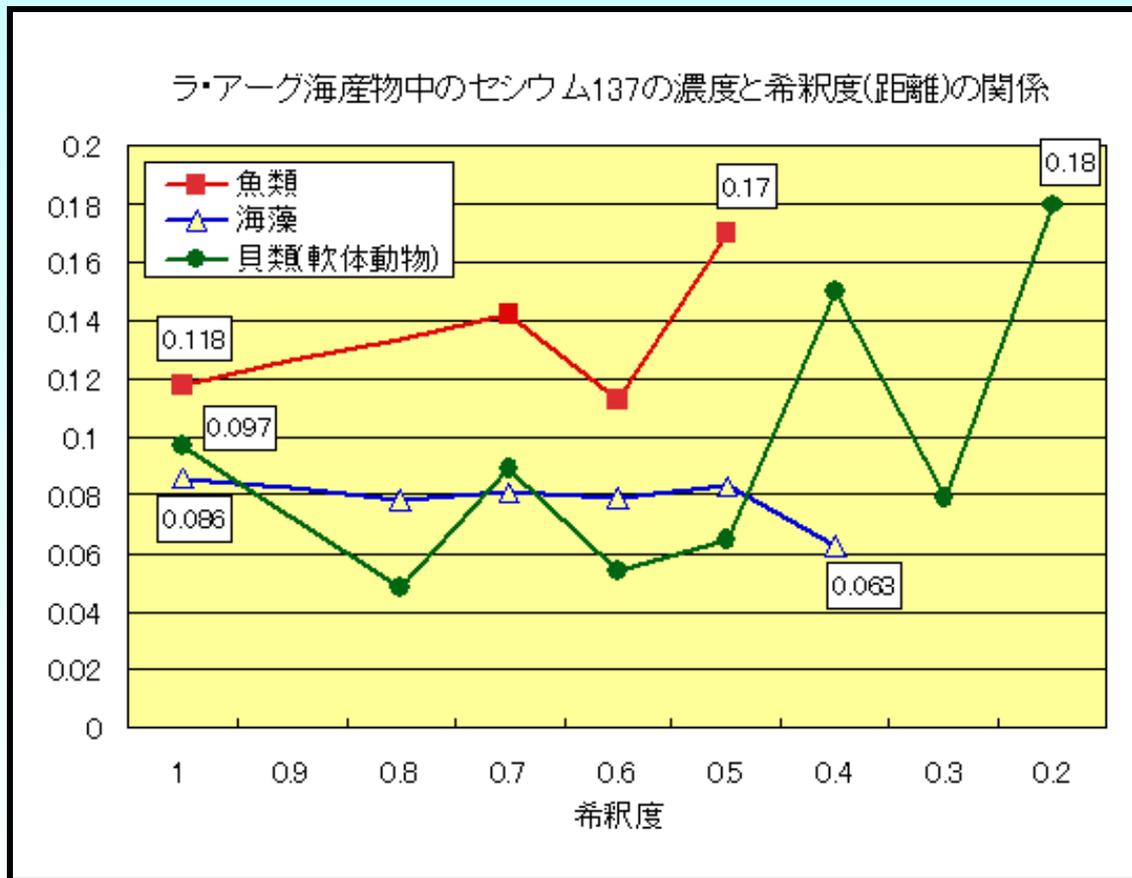
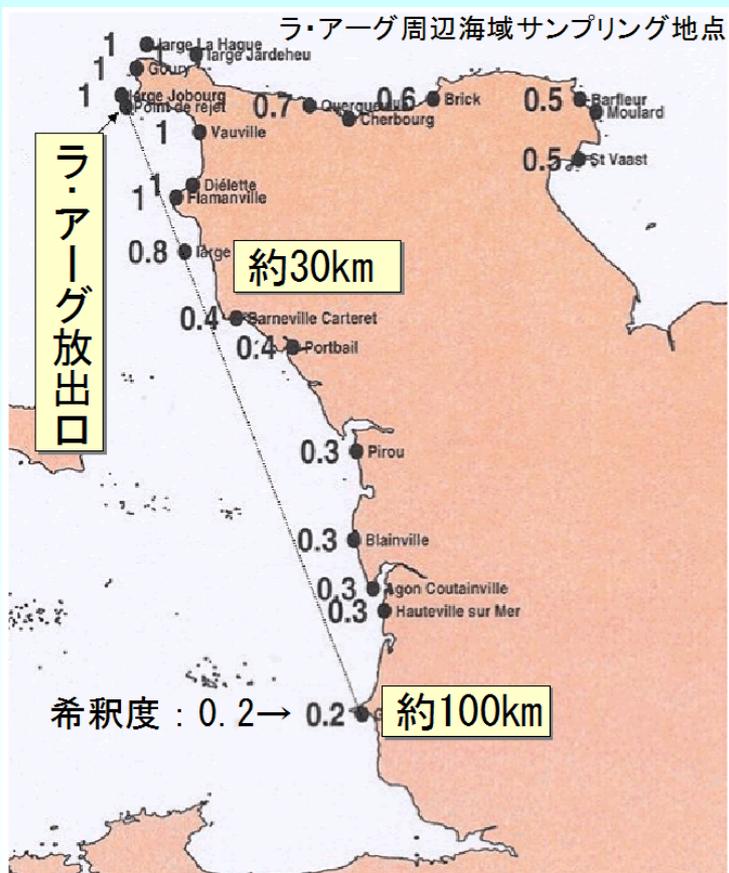
海流調査の結果から見たこと

ハガキ集計結果
(2002年12月9日)



●放射能放出口付近から約1万枚のハガキを海に流した海流調査。東京湾の入り口にまで達し、湾内にも入り込んで蓄積する危険性があることを示した。

フランスでは100km離れても高濃度



(フランスGRNCの2004年報告書から作成)

仏ラ・アーグ再処理工場の周辺海域における海産物中の放射能濃度の測定結果によると、放出口から遠方でも濃度は高いまま。

生物濃縮を過小評価

フランスの実測値に基づいて計算すると、海藻におけるヨウ素の濃縮係数は約25,000。日本の想定は4000。実態を反映させずに汚染を過小評価している。

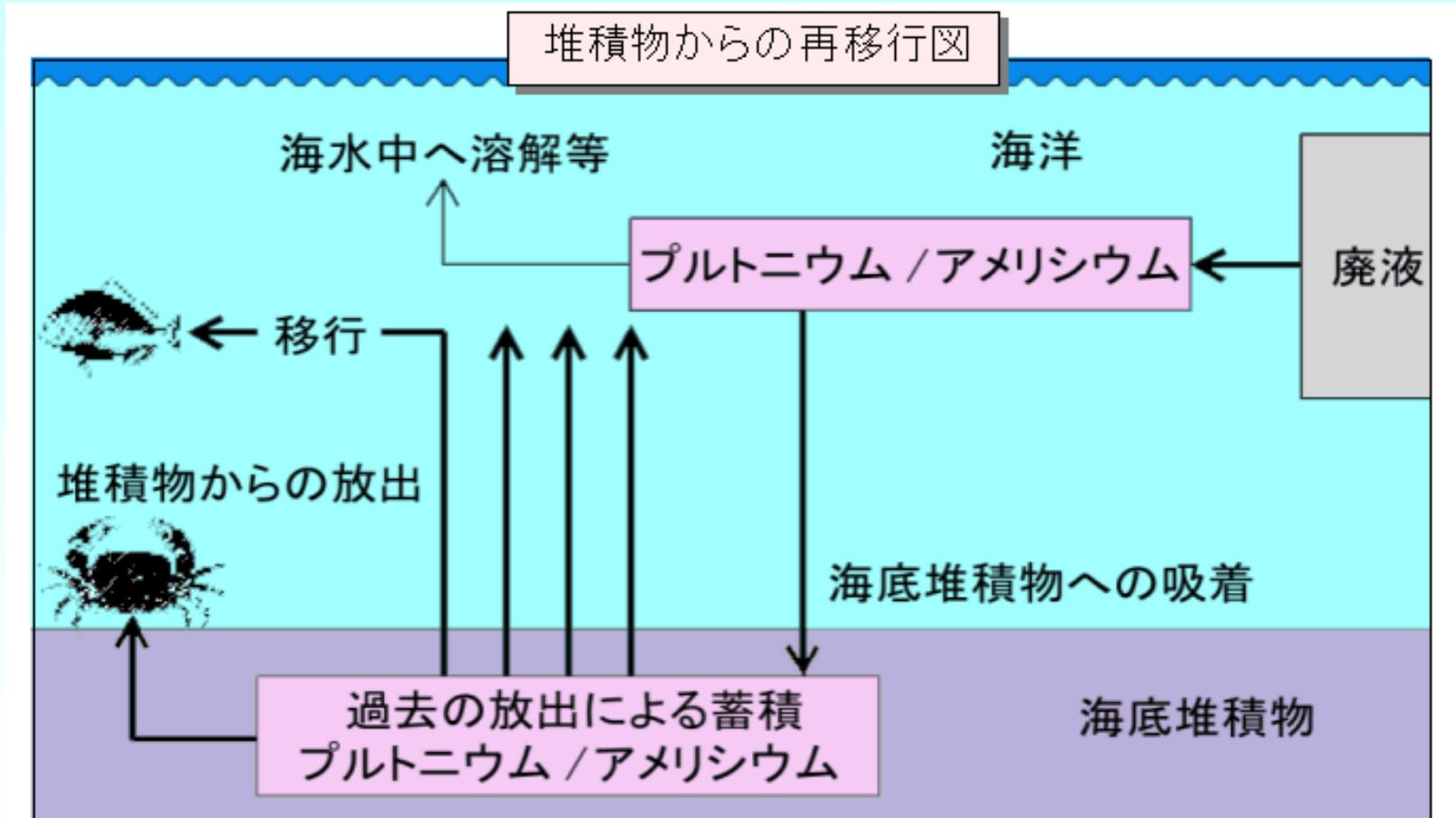
ラ・アーグ周辺海域の海産物におけるヨウ素の濃縮係数

	濃度平均 (Bq/kg) (A)	濃縮係数 (A÷B)	国内原発に対する指針の濃縮係数
魚類	0.361	1,861	10
海藻	4.823	24,861	4,000
貝類(軟体動物)	0.228	1,175	50
甲殻類	0.483	2,490	50

海水濃度平均 : 0.000194 Bq/l (B) ※希釈度0.6の値で計算

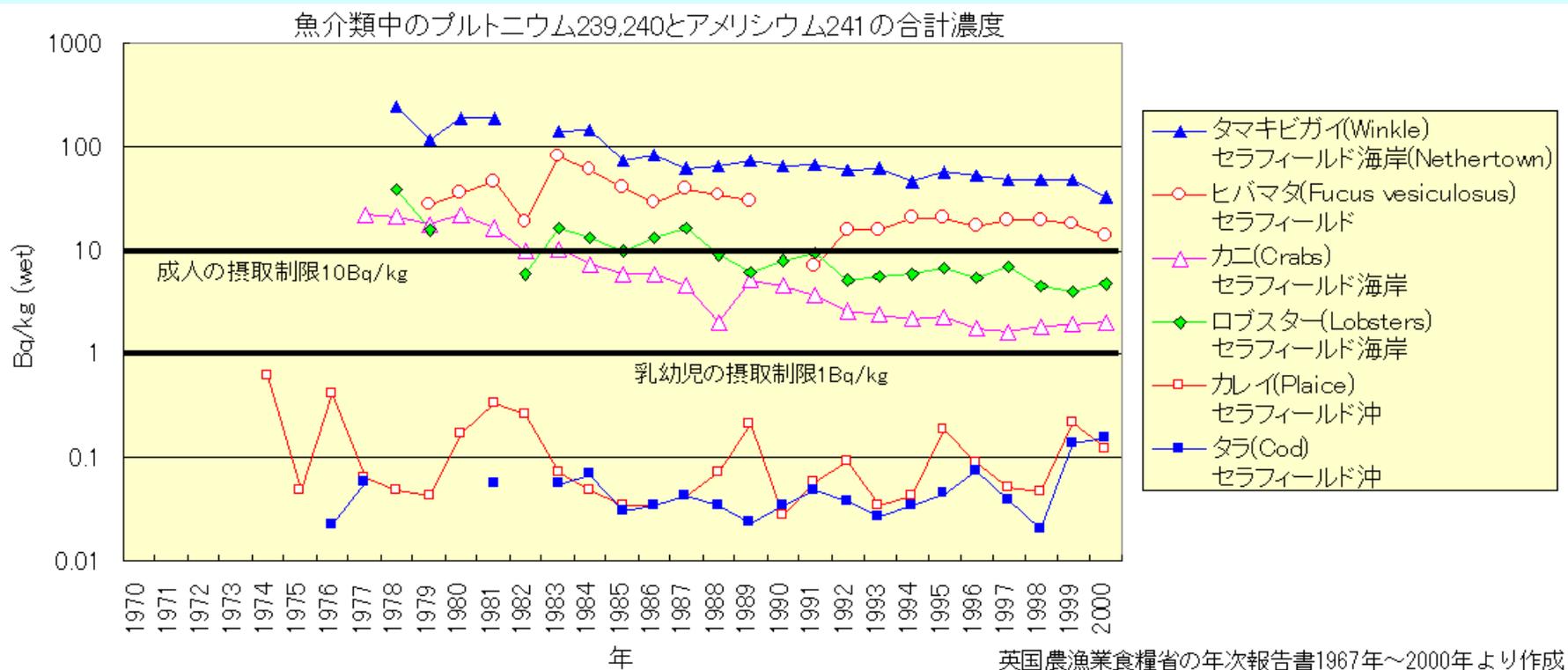
(フランスGRNCの2004年報告書から作成)

放射能は海底にたまる



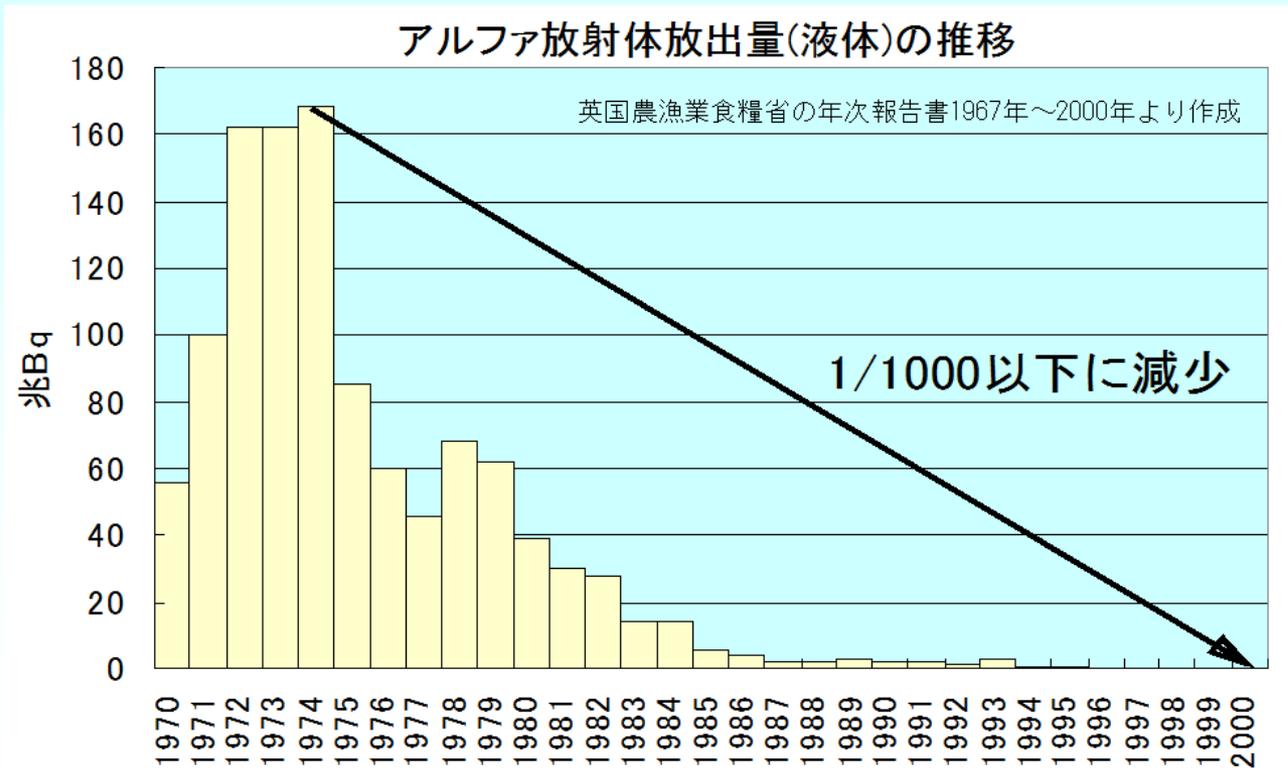
放射能汚染は持続

●イギリスでは放出量は1/1000になっているが、近海の魚介類の濃度は下がらない



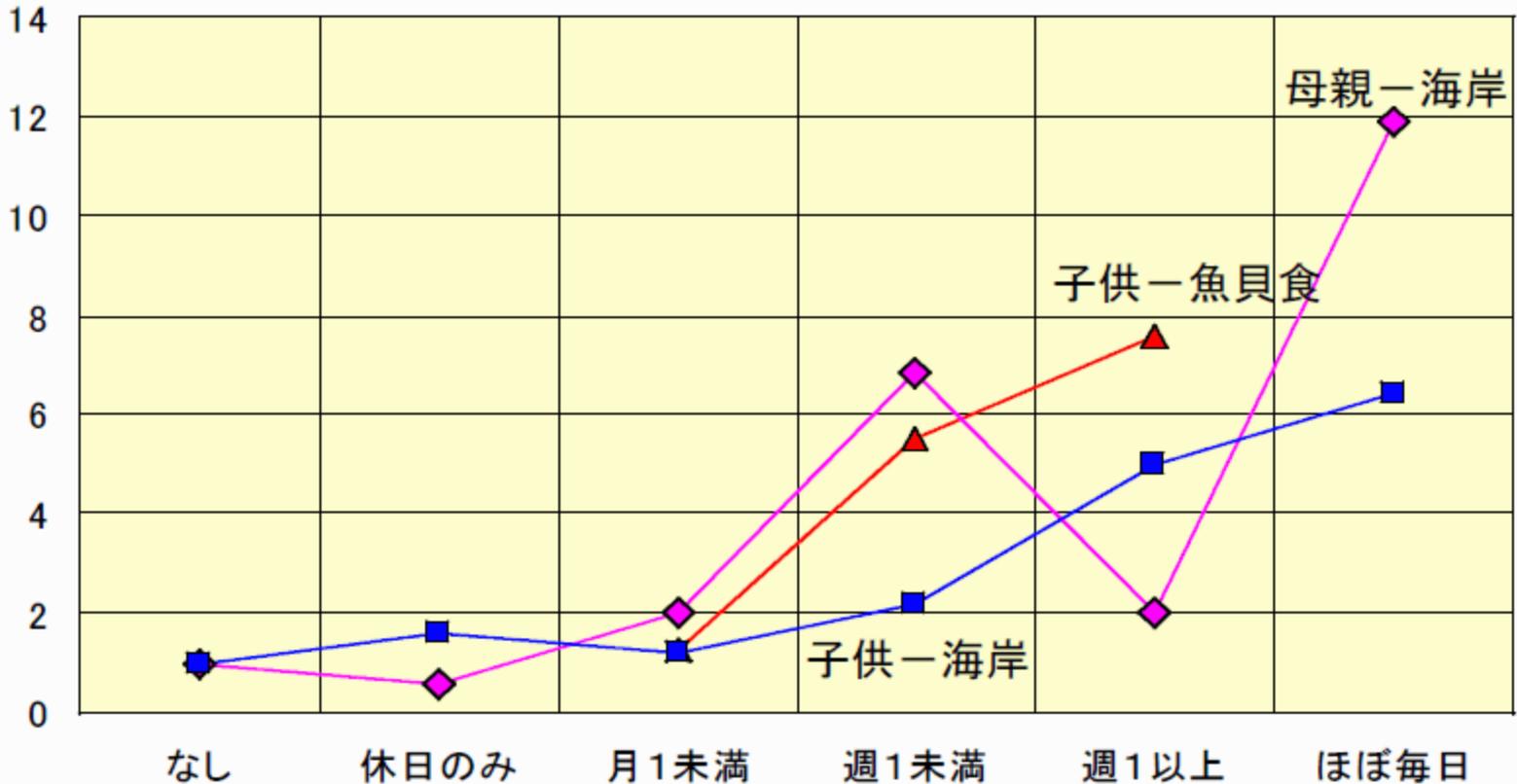
放射能は近くの海にたまる

イギリス・セラフィールド再処理工場の周辺海域では、放出されたセシウムやプルトニウムが海岸近くの海底の堆積物に蓄積され、魚介類を汚染し続けていることが明らかになっている。



■英仏の再処理工場周辺で多発する小児白血病

海岸汚染による小児白血病発生の相対的危険率（海岸と関係なし＝1）



- 母親－海岸：妊娠中に海岸に行く度合いに応じてその子供に白血病が生じる危険度
- 子供－海岸：子供が海岸に行った度合いに応じて生じる白血病の危険度
- 子供－魚貝食：子供が魚や貝を食べる度合いに応じて生じる白血病の危険度

Dominique Pobel & Jean-Francois Viel BMJ 314 1997年

近海の魚を食べるほど、小児白血病が増えるという実態がある